

第2回 音川小学校のあり方協議会 議事概要

開催日：令和6年2月27日（火）

開催時間：19時～20時20分

開催場所：音川地区センター

出席者：中山会長、若松副会長、平野委員、山崎委員、清水委員、田中委員、鉢呂委員、若松（紀）委員、馬家委員、舟瀬委員、若松（広）委員、山本委員、谷委員、頼成委員

事務局：教育委員会事務局理事 古西 達也
学校再編推進課長 山口 雅之
学校再編推進課主幹 高岡 太郎
学校再編推進課計画係主査 春田 圭介
学校再編推進課計画係主事 福島 久美子

《開会》

【司会】 第2回音川小学校のあり方協議会を開催する。
本日、都合により3名が欠席している。
(中山会長 挨拶)

《意見交換：音川小学校のあり方について》

【会長】 前回協議会で、音川小学校のあり方について、まずそれぞれの委員の現時点での考えを聞いてみたらどうかという意見があった。皆さんの忌憚のない意見を順番に伺っていきたい。

【委員】 保育所の保護者会を対象にアンケートを取ったので、ご報告する。
2年後には複式学級になる子どもの保護者としてどのように思っているか、小学校の統合の賛否にかかわらず、今思っていることを書いてもらった。回答を得られたのは12名、回答率は75%だった。
複式学級になるのなら学校統合のほうがいいという意見が一番多かった。統合するとしても、通学バスを運行してほしい、子どもたちがなじめるように事前に交流してほしい、音川地域の子どもたちが集まる場所がなくなるのはやはり寂しいので、自由に遊べる場所をつくってほしい、地

域の交流事業は続けていってほしいといった意見があった。

逆に、小規模校で、全てのことを自分たちで真剣に取り組まなくてはいけない環境だからこそ、積極的にリーダーシップを取る音川っ子を育ていけるのではないかという意見もあり、どちらかというところでは統合には反対という方もおられた。

ほかには、複式学級にしる、学校統合にしる、どちらにしる心配なので今はどちらがいいとは決められないという意見もあった。

【会長】 (2年ほど)前に小学校の保護者会と保育所の保護者会のアンケートも取ったことがあるが、(今回報告のあった結果と)そんなに変わらないようである。

【委員】 今の小学生は複式学級にはならないが、保育所の子どもたちは複式学級になるのは大きな違いかと思う。

【会長】 音川小は令和7年に児童51人で複式学級(2学年で一つの学級)の編制が見込まれるということである。今報告のあったアンケートの結果では、保育所保護者がどのような考えを持っておられるかわかった。その他の方々はどういう考えでおられるか、順番に伺う。

【委員】 将来的には3校(音川小、古里小、神保小)で城山中のところに小中合同の学校を建てたほうが良いと思う。ただし、それにはとても時間がかかるので、その前に古里小などどこか1、2年ぐらいで一次統合できれば良いと思っている。

地区内で長く議論していてもあまりいい案は出てこないと思うので、統合するのならば、樫尾小の例に倣ってスピード感をもって進めれば良いと思う。

【委員】 早くスピード感をもって統合すべきとも思うが、このアンケートを見て、小規模校でも良いという方もいることも考えると、なかなか自分の意見としてまとめる(結論を出す)のはまだ難しい。

【委員】 次の新1年生は5人、その下になると同級生はもう2、3人ほどで6年間過ごすのかと思うと少な過ぎて不安である。古里小となのか、3校統合なのか、どういう形で統合してもいいが、いずれにしてももうちょっと人数の多い小学校生活を送ってほしい。

【委員】 正直、早めの統合を望んでいる。

今は保育所で仲良しでも、大きくなっても5人、女の子2人の中で仲良く入れるか分からないし、少人数でずっといくのは親としては不安である。子どもの性格にもよるが、中学校に上がって大きい輪に入っていくのかという不安もある。神保小との統合か、3校統合ならば古里小との小規模同士の一次統合を望む。

【委員】 私は統合賛成派であり、アンケート結果や先に言われた意見にも賛成である。3校が統合するとなると大変だと思うので、一次的に2校の統合から始めてもいいと思うし、複式学級が見えている状況で先延ばしにした場合、次にこのことを考えるタイミングはいつなのかとも思う。新入生がゼロになるまで待つとも言われていけないと思うので、スピーディーに話を進めていただき、私の2人目の子どもが入学するときにはできれば一次統合校になっているまで話が進んでほしい。

【委員】 私は未就学児の保護者だが、皆さんの意見とほとんど一緒に、複式学級になるのも見えているので、できるだけ早い段階で統合に向けて話が進んでいけばいいと感じる。望ましい人数についてそれぞれ考えはあると思うが、複式学級になるかならないかはひとつの目安になるかと思う。

【委員】 今年の新1年生は5人、来年、再来年になってくるとどんどん人数が減っていくという話を聞いた。本当は自分の卒業した学校がなくなるのは大変忍びなく、音川中が統合になったときも大変につらいと思っていたが、住民、子どもが減ってきているのは紛れもない事実なので、これは本当に仕方がない話なのかなと。

だが、少ないなら少ないなりにマンツーマンなど色々な学習方法はあるし、複式でも十分に勉強になることもあり得る。

かつて、小学校と保育園の先生方の懇話会があった。そのときに異動される先生方が「一番最初に音川に来たときはすごく田舎だと思ったが、子どもは自然の勉強ができるし、自分達も本当に勉強になった。2回目、3回目と帰ってくるのができて大変うれしい」という話をしておられ、やはり地方なり田舎なりに来ていただける先生にも大変いい勉強になっていると思った。私らとしてはそういうことになってくれればベストだが、人数が少ないと（中学校で人数が）多いところに入っていくのは大変厳しいとなると、古里小との統合もあり得るかと思う。

【委員】

私の中学生の孫の状況を見ていると、中学校へ行って急に友達が一気に増える。やはり（音川）小学校は交友関係に制約があるのではと感じていたので、なるべく早くからたくさん子どもたちと交流できるのはいいことだという意味で、統合もある程度やむなしなのかと思う。

ただ、今の子どもたちは、学校だけでなく学校以外の範囲でも結構活動している。私の孫の例では、地域のサッカーのクラブチームに入って地域の中で活動している。そういったこともあるので、統合だけがベストかという一概には言えないとは思いますが、いろんな選択肢があっただけいいと思っている。

ちなみに、小学校のクラブチームでは、神保小と古里小の子どもたちと一緒に活動しており、すんなりと（中学校に）行けた部分もあるのかなと思っただけなので、なるべくそういう環境をつくっていくのがいいのかと感じている。その意味で、やはり統合するのが一番手っ取り早いのではと思っただけ。

【委員】

幼少期は身近な郷土の中で、中学校ではそれが2つか3つ集まった少し大きな範囲で、高校では県全域、その後は全国規模でというように、子どもの発達段階に応じて切磋琢磨できる環境が理想だと思っただけ。

今、実際に小学校や保育所の（保護者の）方の生の声を聞く機会は実は初めてで、（おっしゃることも）そうなのかなとも思う。私は複式学級が駄目とは全然思っただけいないし、どれだけでも成果を上げられると思っただけいるが、将来的に学年で2人とかになるとこれはちょっとつらいとは正直今思っただけいるところである。

ただ、一遍に3校統合した小学校でたくさん（子どもたちの）中で交友関係も広まるが、逆のこともまた懸念されるといったことを考えると、範囲は少しずつ広げるというのもありかと思っただけ。

【委員】

私も早めに統合したほうがよいと思っただけいる。古里小が一番現実的なのでは。

私が小学生だった30年前はまだクラスに20人いて、5、6年前の息子のときもまだ十何人いたが、現実的にそれがぎりぎりだったのかなと思っただけいる。統合しない、人を増やせばいいと言われる方もおられるかもしれないが、ここまで減るといっただけのが何となく見えていたはずなのに

対処してきておらず、今からでは10年とかかかってしまう。今からでは遅い。

よく小学校がなくなると地域が衰退すると言う方がおられるが、もう既に衰退しているから（人が）減っているわけである。その上で、小学校が統合してでも人を呼べるような、音川の強みである交流センター事業のような経験ができる場を提供できるようにして有効利用し、人が来るような施設にするなりして、地域の活性化も含めて進めていけたらいいと思っている。

【会長】 いい意見である。

【委員】 統合した後の校舎の活用の話なども時々している。万が一統合しなかったときに、中学校で少人数から大人数の中に入るとなかなかなじめないというのはあると思う。これからの小学生のことを考えると、段階的に交流なども始めて、古里小などとの統合に向けて話を進めたほうがいいと思う。

確かに小学校がなくなると寂しいが、子どもたちの未来を考え、音川へたくさん（の人に）来てもらえるよう地域が考えて、今まで以上に発信していくのが一番いいと思っている。

【委員】 学校をなくすということにはいろいろな考え方があるのだろうと思うが、我々の年代としてはあり得ない話だ。何か工夫して存続できればと思う。私らが小学生のときは、戦後のベビーブームで同級生は80～90人いた。そのときに、道島のほうに分校があった。

市全体にいわゆる本校は64校、分校は1校か。

【学校再編推進課長】 はい。ただ、皆さんが考えておられる分校とは若干違う。

【事務局理事】 家庭に事情があったりするような（子どもが在席している）。

【委員】 やはり学校は地域のシンボルであり、一番大事なものなので、慎重に慎重を期さないといけない。（統合した場合）歩いて通学するということが前提ならあり得ない距離になるし、小人数が必ずしも悪いわけではなく、いいこともたくさんあると思う。先だつてのような地震もいつ起こるか分からないし、仮に統合してみたとしても、10年後にもまた統合となるかもしれない。

地域で最も大事にしなければいけないものは子どもであり、子どもには

当然学校がついて回るということを考えると、学校はあつてしかるべきだ。いわゆる分校方式が取れないかなど、音川地区に学校が存続できる方法を検討するのが大前提であり、それもなく、人数が少なくなったからと統合ありきなら、会合をする必要がない。

【委員】 ふるさとづくりと自治振興会の新年会に来ておられた方から、小学校が統合しなかったら教育環境もよくないので子ども（保護者世代）が（音川から）出ていくと言っているという話を聞いた。

【委員】 私は正直、音川がこのままなら家を出ていこうと思っているが、統合すれば（音川でも）子どもの友達がいっぱいできるし環境もよくなるから、早く統合したくてこの協議会に入った。これで統合を持ち越しにして、何年か後に統合の話をしようとなったら、少なくとも私1人が（音川を）出る。全員聞いたわけでないので分からないが、そう思っている人も少なくはないと思う。

そうすると、もっともっと子どもが減る。その状態で小学校を無理やり残して地域が成り立つのか。小学校がなくなったからといって地域がなくなるわけではない。

【委員】 これから子どもたちが少なくなることで、サッカーや野球をするにも1チームも組めないというのはかわいそうで、子どもたちの学習の機会を考えると、やはり人数が多いほうが（よいのでは）。そういったことも大人たちが考えていかなければいけないと思う。

【委員】 何十年か前の音川中の統廃合のときには、中学校ぐらいになればある程度大人数のところまで切磋琢磨しないといけないから、統合してしかるべきだと思った。しかし小学校、ましてや低学年が、それほどのことをしないといけないのかと思うと、やはり私は学校統合には反対だ。

【会長】 委員の意見としてお聞きした。

【委員】 最優先に考えなければいけないのは、小学生やその保護者の考えだと思う。子どもたちの保護者が、統合したほうがいい、子どもたちの教育の機会（を考慮したい）、友達が多いほうがいいと言うのであれば、学校統合を進めていかなければいけないと思う。

【委員】 音川をよくしようと思っている中で、（学校統合しないことで）頼りにしている若い世代がいなくなるほうが、先のことを考えたら痛い。その上

で（音川小を）残して何の意義があるのかとってしまう。

【委員】 仮に古里小と一次統合して、音川小のにぎわいがなくなってしまうとなると、高齢者ほど余計に不安になられるかもしれない。昔は青年団があつて、15～20ほど年が離れていても、いろんな活動で集まるなどつながりがあつた。あくまで提案だが、音川は音川として保護者世代が年に数回程度活動できるような組織を何か1つ立ち上げるなどして、学校統合と並行して進んでいけばいい。公園のようなものないので、デッドスペースなどを開拓して遊び場を作るといった機運が盛り上がればいいと思う。

【会長】 児童を持つ保護者の皆さん（の考え次第）だと思う。卒業した小学校、中学校がなくなってしまうのはやはり寂しいが、これからの音川を背負って立つ若者が音川をどういうふうにしていくかを考えていかれ、それに対して年長者は道標をつけるような格好になると思う。

【委員】 例えば、思いつきではあるが、コンパスで円書いてみて、まずどこに地区全体の中心があるのかなど、様々な方法で検討しないとイケない。

【学校再編推進課長】 そういった資料が必要ということであればご準備する。

【委員】 アンケートにもあるように、保護者の皆さんは複式学級のことについて非常に心配しておられる。複式学級について我々は知識を持っておらず、誤解している部分もあるかもしれないので、プラスかマイナスか判断がつかない。反対だ賛成だと水かけ論をしても切りがないので、それなりに勉強しなくてはいけないと思う。

【委員】 複式学級を経験した生徒の保護者に話を聞いたが、小学校の複式学級で教育上で駄目だった面は正直ないらしい。小学校では赤点を取ったら落第するというのもないので、2学年一緒にいる授業に学力、勉強内容でマイナス面はないが、かといってプラス面も特にない。

先生にも話を聞くと、複式学級（の担任）になるに当たって、例えば特別なカリキュラムがあるとか、資格があるとかもないそうだ。

【委員】 学習面について私は専門家でないから分からないが、少ない人数で集団生活を送ることによる不安のようなものが保護者の皆さんの心配として一番大きいと感じた。では、一体どういうことが一番問題なのかということをもう少し掘り下げた上で、皆さんの考え方をもう少し整理してい

くことが、結論を出す近道かと思う。

この議論は音川中の統合のときも散々やった。そのときに、次は音川小だから何とかしていこうと言っていたが、その後の20年間、小学校のことについてほとんど考慮されてこなかった。それを棚に上げて、ただ反対だと言っているだけでも埒が明かない。

【学校再編推進課長】 こちらでも複式学級についての資料なり、この後の議題にも絡んでくるが、実際そういった複式学級でどんな授業をしているか、あるいは適正規模校でどのような授業が行われているのかを見に行ったりと、比較をしながら皆さんで感じてもらうのが一番いいかと思うので、また事務局より次回にでも提案をさせていただきたい。

【会長】 年長者には年長者の考えがあるが、一番肝心なのは保護者の意見だ。自分の子どものこととして、全員が全員ではないと思うが、複式学級よりもある程度大きい学校へ行ってはどうかという考えでおられる。早急に決めるものではないが、一つの課題として進めたい。

《意見交換：今後の活動について》

【会長】 今後、協議会としてどのような活動をすべきか、前回資料を参考にしながら、意見を伺いたい。

【委員】 統合してなくなった小学校のコミュニティ、例えばPTAや体協などが今どうなっているのかを知りたい。

【学校再編推進課長】 場合によってはその地域の方々に実際に来てもらって話を聞くというのも方法の一つかと思うので、資料のご用意なり、話をしに来ていただくご準備なり、調整させていただきたい。

【委員】 音川の立場からすると、樫尾小の協議会の人に、経緯や意見集約の方法について話を聞くのはいいのではないか。

【会長】 古沢小はまだ統合はしていないのか。

【学校再編推進課長】 まだ統合していない。音川の後にある方協議会を設立された。現在はまだ設立総会（1回目）のみの開催なので、音川と同じような状況である。樫尾はもう統合の合意・準備も終わって統合を迎えるだけの状況である。

【委員】 樫尾はどちらかというと地元主導なのか。あるいは、市の働きかけも大きかったのか。

【学校再編推進課長】 必ずしも最初から地元で合意されていたわけではなく、音川と同じように協議会を設立し、我々が事務局として参加した場で最終的に合意をされていったものと認識している。

P T A会長の思いも強く、働きかけがあったかと思うが、憶測でしかないので、本人から聞かれたほうがよいと思う。

今いくつか出たご意見には相手方がいるようなテーマもあり、一度に全部はできないと思うので、事務局と会長とで調整させていただき、今出た意見の中から次の第3回目の議題、活動案を提示させていただければと思う。その都度、ご意見が出てくれば、また調整してまいりたい。

【会長】 檜尾小の協議会の役員の方々に来ていただければありがたい。統合までの経過を皆さんの前で話していただきたい。

最後に、事務局から連絡等があるか。

【事務局】 (事務連絡)

《閉会》

【司会】 第3回音川小学校のあり方協議会については、本日皆様からいただいたご意見等を踏まえ、日程や内容を調整し、改めて案内する。

以上をもって、第2回音川小学校のあり方協議会を終了する。

— 了 —